

JALUXの マイルがたまる保険



JALUX保険ガイドなら、
さまざまな保険ラインナップの中から
あなたにぴったりの保険を選べるほか、
JALマイレージバンクのマイルもたまります！

※一部、マイル積算対象外の商品もございます。

今なら！

海外旅行保険 冬のボーナスマイルキャンペーン

キャンペーン期間

2008年12月1日～2009年1月31日
(旅行開始日)

引受保険会社

東京海上日動火災保険(株) / AIU保険会社



詳しくは
ホームページで

JALUX 保険

検索

<http://www.jalux.com/hoken/>

お電話でのお問い合わせはこちら

☎ 0120-141-650 営業時間 9:00～17:00 (土・日・祝日・年末年始を除く)

株式会社 JALUX

(東証1部: 銘柄コード2729)

〒140-8638 東京都品川区東品川2-4-11

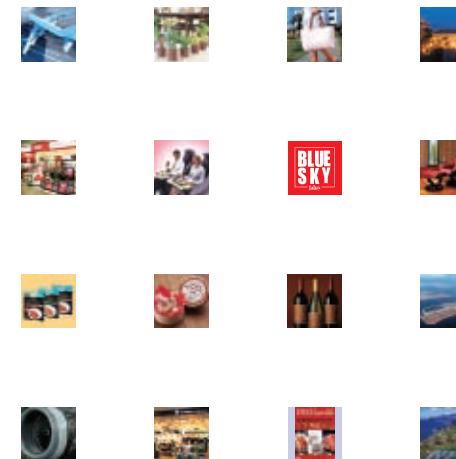
TEL03-5460-7109 (株式会社チーム) 03-5460-7233 (IRチーム)

www.jalux.com



2008年12月発行

Jalux
幸せづくりのパートナー



Aviation-related
Corporate solutions
Travel retail
Food & beverage

第48期 第2四半期(累計)事業報告
2008年4月1日～2008年9月30日

JALUX REPORT

Topic*01

JAL セレクションシリーズ 「オリジナルパスタソース」新発売!!

新たな“食”のご提案として、パスタとあわせるだけで、手軽に高級な味をご賞味いただける「オリジナルパスタソース」(3種)を、2008年9月1日より、JAL セレクション※シリーズの新商品として発売いたしました。具材を豊富に、さまざまなタイプのパスタ(スパゲッティ、ペンネ、フェットチーネなど)でお楽しみいただけます。

※JAL セレクション:「うどんすかいかい」をはじめとしたJAL機内食メニューで好評のデスクイシリーズなど、当社のオリジナル食品の総称ブランドです。

●通信販売でお買い求めいただけます。

☎0120-25-3984 9:30~17:30(土・日・祝日も承ります)



お好みにあわせた、**3つのテイスト**
箱から出してそのまま電子レンジで
約1分30秒(500Wの場合)

Topic*02

羽田空港内「BLUE SKY」全19店で SuicaおよびWAONがご利用いただけます。

お客様の利便性の向上を図るため、JALUXが羽田空港第1旅客ターミナル内に展開する「BLUE SKY(ブルースカイ)」19店舗において、Suica(スイカ)およびWAON(ワオン)の各電子マネーを導入いたしました。



Suicaは東日本旅客鉄道株式会社の登録商標です。

Topic*03

BEAMS×JALUX初のコラボレーション! オリジナル商品を発売開始

当社とセレクトショップのパイオニアであるBEAMS(株式会社ビームス)との初コラボレーションにより、第1弾として、出張に、旅に、遊び心をプラスする多機能トート「ダブルフェイストート」を発売いたしました。

“BEAMS×JALUX”コラボレーションは第2弾・第3弾も展開中で、第6弾まで予定しております。どうぞご期待ください。

●通信販売でお買い求めいただけます。

☎0120-25-3984 9:30~17:30
(土・日・祝日も承ります)



Contents

Topics	01	業績ハイライト	03	第2四半期(累計) 連結財務諸表	07	株主優待について	10
トップメッセージ 営業の概況	02	JALUXトップインタビュー Q&A	04	会社情報	09		

Top Message

トップメッセージ | 営業の概況

皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当上期は、世界経済の混乱や原油価格の高騰などを背景に、景気の減速基調が鮮明になりましたが、当社の事業環境においても個人消費の鈍化傾向などの影響を受けて、総じて軟調に推移いたしました。

B to Bビジネス(主に事業会社向け事業)においては、同業他社との競争激化や前期収益を伸ばしていた不動産事業の反動もあって、売上高・利益とも前年を下回る結果となりました。B to Cビジネス(主に一般消費者向け事業)では、フーズ・ビバレッジ事業の収益拡大により、売上高では前年実績を上回りましたが、空港店舗事業などが伸び悩んだ影響などにより減益となりました。

これらの結果、当上期の売上高は57,492百万円と、前年同期と比べて95%の水準にとどまりました。一方、昨今の年金資産運用悪化の影響などを受けて、退職給付費用が増加したことなどもあって、営業利益、経常利益、純利益においてはそれぞれ前年実績を下回る結果となりました。

下期以降も、事業環境は厳しい局面が予想されますが、全社を挙げて収益確保に努めるとともに、コスト削減を進めて通期目標の達成に取り組んでまいります。また世界経済における日本企業の相対的な地位が高まっている現状を、逆に「JALUXグループ発展の好機」と捉え、中長期的な成長分野への事業展開を推進して、着実かつ持続的な成長への布石作りにも尽力してまいります。引き続き、皆さまからのご期待とご支援ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

連結業績 (単位:百万円)	2009年3月期 第2四半期(累計)	前年同期比 (%)	2009年3月期 通期予想	前年度比 (%)
売上高	57,492	94.8	127,000	105.6
売上総利益	11,706	97.6	25,500	106.8
営業利益	907	72.1	3,000	137.1
経常利益	987	74.0	3,100	119.4
純利益	410	75.5	1,550	158.4



代表取締役社長 岡崎 俊城

通期業績の見通し(2009年3月期予想)

国際金融システムの混乱から波及した実体経済の低迷と個人消費の落ち込みは、当社経営環境にも少なからず影響が見込まれます。一方で落ち着きを取り戻しつつある原油相場や円高傾向の持続、また食の安全・安心志向の高まりなどによる高品質・高付加価値商品への需要シフトなど、当社ビジネスにとって追い風となる材料も混在しており、引き続き事業環境の変化に迅速かつ的確なアプローチを行って、企業価値の最大化と適切な株主還元に向けてまいります。

B to Bビジネスでは、航空機部品の販売で順調な実績が見込まれることに加え、不動産事業で前期での販売用不動産(土地・建物)の販売による収益の大幅増加の反動もあって、前期実績を下回ることが予想されるものの、景気動向などに左右されにくい主力のサブリース事業などでは引き続き堅調な需要が見込まれます。

B to Cビジネスでは上期に引き続き、フーズ・ビバレッジ事業で好調な推移が予想されるほか、原油価格の沈静化や円高を契機に若干ながら航空旅客需要の回復シナリオも想定されることから、当社の強みである、「通信販売」・「機内販売」、「空港店舗」を一体的かつ体系的に連動させた販促キャンペーンなどにも取り組んで収益確保に努めてまいります。

これらにより、年度目標の達成とさらなる企業価値向上に取り組んでまいります。

業績ハイライト

Financial Summary

セグメント別概況 ※金額はセグメント間取引調整前



航空機・機材関連では、航空機部品の販売で前年同期を上回る実績を収めました。海外のエアライン向け中古航空機の販売では、前年に比べ、収益性の高い大型航空機の販売が少なかったことなどによりセグメント合計では減益となりました。

売上総利益 1,719百万円 前年同期比 92.6%



ブランド免税品関連では、機内販売事業で減収となりましたが、ブランド品の免税店向け卸売事業などが好調に推移し、また通信販売事業でもコスト削減などにより、前年同期を上回る実績を収めました。一方、リゾート事業で受注減が見られたほか、空港店舗事業においても北海道地区でのヒット商品が増収に貢献したものの、羽田・成田空港などでの伸び悩みが影響して店舗関連全体では減益となりました。

売上総利益 6,860百万円 前年同期比 97.6%



印刷メディア関連では、法人向けセールスプロモーション関連の受注が好調に推移したものの、収益率の低下などにより減益となり、また不動産事業においては前年に利益率の高いプロジェクトの完成等で収益を伸ばしていた反動もあって、前年同期を下回る結果となりました。

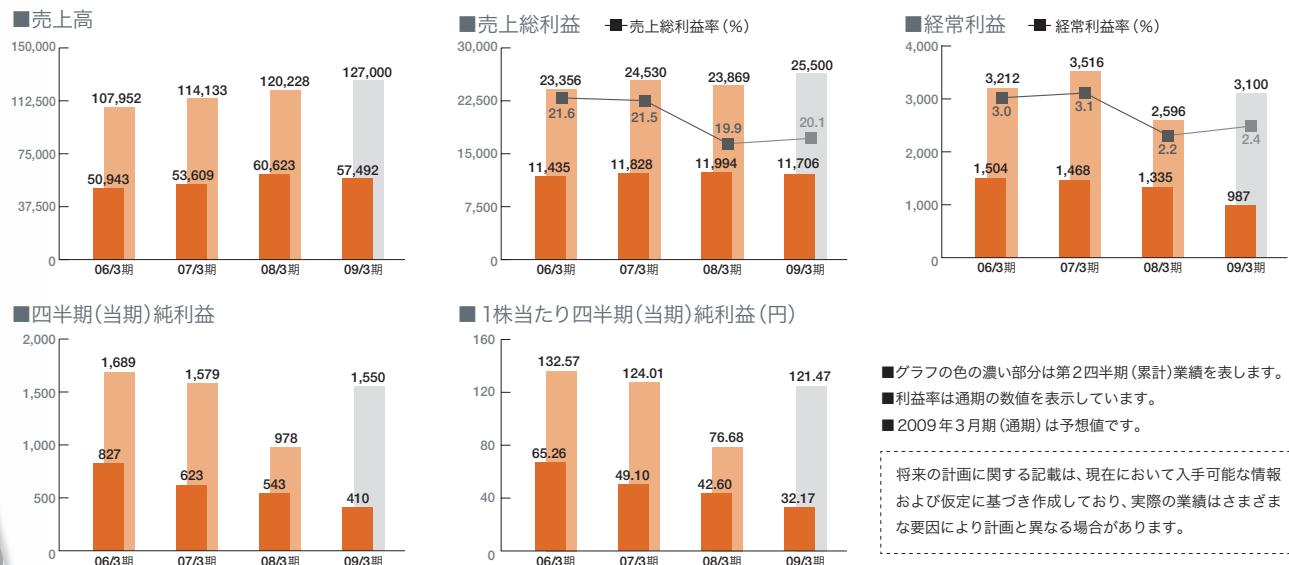
売上総利益 1,822百万円 前年同期比 97.8%



贈答用食品関連では、個人消費マインドの低下の影響を受けて中元贈答が伸び悩みましたが、農水産物関連において付加価値の高い冷凍水産物や青果物の輸入販売が好調に推移いたしました。また加工食品事業においては機内食関連で双日グループとの提携効果が発揮されたことなどにより、セグメント合計では増収増益となりました。

売上総利益 1,350百万円 前年同期比 104.7%

業績の推移(連結) (単位:百万円)



■グラフの色の濃い部分は第2四半期(累計)業績を表します。
 ■利益率は通期の数値を表示しています。
 ■2009年3月期(通期)は予想値です。
 将来の計画に関する記載は、現在において入手可能な情報および仮定に基づき作成しており、実際の業績はさまざまな要因により計画と異なる場合があります。

JALUX トップインタビュー

Q & A



2008年6月に実施いたしました「株主アンケート」では1,200名を超える株主の皆さまのご協力をいただきました。紙面をもって厚く御礼申し上げます。頂戴した貴重なご意見は、今後のIR活動、また経営の参考にさせていただきます。そこで今回は、アンケートを通じて株主の皆さまより、特に多く寄せられたご質問やご意見などに対して、当社社長・岡崎俊城がお答え申し上げます。

Q 08年6月から新経営体制へ移行したそうですが、目的や狙いは何でしょうか？

A 当社は事業領域が多岐にわたり、またビジネス属性も異なることから、従来は営業系7事業本部が並列し、互いに独立性を保ちながら事業運営を行っていました。しかしその一方で、同じ顧客に対して異なる事業本部から別々の営業アプローチが行われていたり、商品配送システムが並存しているなど、経営の効率性が損なわれている現状がありました。その辺りを踏まえて、6月より刷新した新経営体制では、事業本部間の連携強化や事業効率性の追求、組織の活性化などを目的に、B to B事業(主に事業会社向け)を担当する「コーポレート・ビジネス系」と、B to C事業(主に一般消費者向け)を担当する「リテール系」の大きく2本に集約いたしました。

これにより、たとえば機内販売・空港店舗・通信販売の各事業は、同じ「リテール系部門」として集約されておりますので、一体的かつ複合的な販促キャンペーンなども実施しやすい体制が整いました。これらの相乗効果は、下期以降発揮されてまいりますのでご期待をお寄せいただければと思います。

事業概要



Q 外部からは双日グループとの提携効果があまり見えません。現状どのような取り組みが行われているのですか？

A 2007年3月、当社の企業価値向上を目的に、大手総合商社の双日株式会社が当社筆頭株主になりました。それまでのJALUXのビジネス分野領域は「商流」というと流通・小売に近い分野、「川中」から「川下」分野に経営資源が集中しておりましたが、原材料の調達機能や製品の加工など「川上」分野に優れる双日グループとのパートナーシップによって、当社にとって理想的な補完関係を構築することができました。

現在、さまざまな事業領域において互いの事業を組み合わせたビジネスモデルの創造が行われておりますが、すでに具体的な成果に結びついている一例をご紹介しますと、「機内食事業」での取り組みが挙げられます。



JAL 韓国ソウル線では、今年7月より“食楽空弁”（しょらくそらべん）という名称で、お弁当タイプの機内食が導入されておりますが、厳しい品質管理の下、一日あたり1,400食のお弁当を納めるのは難易度の高い仕事だったものを、JALUXの食品部門が双日グループのお弁当供給機能とうまく組み合わせて今回実現したものです。

このように、JALUXグループと双日グループの事業リソースを組み合わせたビジネスモデルでは、外部の方から見ると双日グループとの提携効果が見えにくいと思いますが、現在さまざまな事業領域において着々と両社のコラボレーションが進行しています。



Q 今日、企業にも社会貢献などが求められつつありますが、CSR(企業の社会的貢献活動)などについて、どのような取り組みをしていますか？

A 当社は「幸せづくりのパートナー」の企業理念の下、良き企業市民を目指して、環境への配慮などとあわせて、社会貢献活動にも積極的に取り組んでおります。たとえば災害時の救援物資の援助や、JALグループの航空輸送において排出されるプラスチック廃材などを加工して再利用するなど、環境にやさしい事業モデルもすでに開始しています。

本年9月には社内に「CSR推進委員会」を設置して、これら取り組みをさらに推進しておりますが、今般、株主の皆さまも株主優待商品券をご活用いただくことにより、当社を通じて社会貢献

活動にご参加いただける仕組みを構築いたしました。株主の皆さまとJALUXがともに育ててゆく制度を目指してまいります。

>>>詳細については10ページをご覧ください。



Q 上場以来、おおむね右肩上がりで安定的に成長していた業績が、前期は減益となりました。今後の成長戦略ストーリーについてお聞かせください。

A 前期(08/3期決算)は、売上高では過去最高を更新し、順調な事業規模の拡大が進みましたが、持分法適用の関連会社における企業年金債務の償却、またオーストリアでの小売店舗閉鎖に伴う費用などの一過性の損失を計上したことにより、利益では前年実績を下回る結果となりました。

今期に入り、金融不安に端を発した世界的な景気低迷などもあって、上期までの業績はやや軟調に推移しておりますが、中長期レベルで見た当社を取り巻くビジネス環境は有望であり、戦略的な取り組みを通じて、これらビジネスチャンスを実際に取り込むことにより、今後とも成長トレンドの持続が可能と考えています。

たとえば2010年に迫った成田空港・羽田空港での発着枠拡大による国内航空旅客数の大幅増加や、中国・インドなどを含むア

ジア太平洋地区における飛躍的な航空産業の発展は、航空分野に独自のナレッジやノウハウ、確固たる実績を有する当社グループにとって大きなビジネスチャンスであると捉えています。また「食品の安全問題」などから、クオリティが高く、安心できる商品やサービスに対する顧客ニーズの高まりは、従来からJALUXが取り組んでいる「本物志向」「健康志向」と重なり、長年の経験で蓄積された商品調達力などが大いに活用できるものと考えています。

そのほかにも、今年10月には保険事業の戦略子会社を設立するなど、引き続き経営トップとして中長期的且つ大局的な視点に立ったJALUXグループの成長ストーリーを着実に実現してまいります。

その他のご質問

Q 株主優待制度の拡充について、計画はありますか？

A 株主優待制度の拡充は、配当政策とあわせて株主還元を図るうえでの最重要施策であると認識しており、引き続き鋭意検討してまいります。たとえば長期間保有している株主様や複数単元以上を保有している株主様に対して優遇策を導入するなど、株主様間の公平性に十分配慮し、かつ配当政策とのバランスなども勘案しながら適切な株主還元に努めてまいります。

Q 自社株買いなどの、株価対策はお考えですか？

A 経営として株価の動向には日頃より注視していますが、当社の場合、マーケットにおける株式の流通量自体が元々多くないため、自社株買いの実施はさらなる需給関係の逼迫を招くことになり、結果として逆に株主様の利益を損なうことも想定されます。このような背景も含めて慎重に対処してまいりたいと考えております。

Q JALグループとの関係において、何か変化はありますか？

A JALから双日へ当社株式の30%が譲渡されたことにより、JALの当社持ち株割合は21.4%となりましたが、実務レベルでは、従来とほとんど変化はございません。引き続きJALグループにおける流通・サービス事業の中核会社としての役割を果たすとともに、JALグループで培った実績やノウハウと双日グループの事業リソースを融合した事業モデルの発展に努めてまいります。

Q 個人投資家向けの会社説明会は、実施していますか？

A 大手証券会社のご協力をいただき、定期的に個人投資家向けの会社説明会を開催しております。最近の実績では、本年9、10月にかけて全国7都市にて開催いたしました。開催時には、JALUX・IRニュースメール(eメールサービス)などのご案内しておりますので、当社ホームページ「株主・投資家情報」からメールニュースのご登録(無料)をいただければ幸いです。また別途開催している「機関投資家およびアナリスト向け・決算説明会」の様子は、同じくホームページ「株主・投資家情報」において適宜、動画配信をしています。

四半期連結貸借対照表

科目	期別	前期	当第2四半期
		2008年3月31日現在	2008年9月30日現在
資産の部			
流動資産			
現金及び預金		29,210	28,310
受取手形及び売掛金		6,280	5,292
商品		12,158	11,894
販売用不動産		6,085	6,226
その他		1,224	1,301
貸倒引当金		3,483	3,616
		△21	△21
固定資産			
有形固定資産		12,364	13,332
無形固定資産		4,812	5,684
投資その他の資産		1,873	1,710
		5,678	5,937
資産合計		41,574	41,643

科目	期別	前期	当第2四半期
		2008年3月31日現在	2008年9月30日現在
負債の部			
流動負債			
支払手形及び買掛金		21,713	21,083
•短期借入金		13,259	12,537
未払法人税等		3,953	4,144
未払費用		413	333
その他		2,255	2,259
•長期借入金		1,831	1,808
固定負債		3,828	4,863
退職給付引当金		2,970	4,031
役員退職慰労引当金		30	33
その他		176	80
		650	717
負債合計		25,542	25,947
純資産の部			
株主資本			
資本金		15,144	15,107
資本剰余金		2,558	2,558
利益剰余金		711	711
自己株式		11,885	11,848
•評価・換算差額等		△10	△11
•純資産合計		△97	△339
•負債純資産合計		△5	△60
繰延ヘッジ損益		△43	△46
為替換算調整勘定		△48	△232
少数株主持分		986	927
		16,032	15,695
		41,574	41,643

四半期連結損益計算書

科目	期別	前第2四半期	当第2四半期
		2007年4月1日～ 2007年9月30日まで	2008年4月1日～ 2008年9月30日まで
売上高		60,623	57,492
売上原価		48,629	45,786
売上総利益		11,994	11,706
販売費及び一般管理費		10,735	10,798
営業利益		1,258	907
営業外収益		195	162
営業外費用		118	83
経常利益		1,335	987
特別利益		39	1
特別損失		125	69
税金等調整前四半期純利益		1,249	920
法人税等		614	443
少数株主利益		90	66
四半期純利益		543	410

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

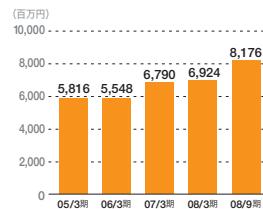
科目	期別	前第2四半期	当第2四半期
		2007年4月1日～ 2007年9月30日まで	2008年4月1日～ 2008年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		1,658	203
投資活動によるキャッシュ・フロー		△673	△2,012
財務活動によるキャッシュ・フロー		△1,569	906
現金及び現金同等物に係る換算差額		4	△57
現金及び現金同等物の増減額(△減少)		△580	△959
現金及び現金同等物の期首残高		5,646	6,174
現金及び現金同等物の四半期末残高		5,065	5,214

売上総利益は前期比97.6%の実績を収めました。年金資産の運用悪化等の影響もあって人件費関連などが増加したことによって、営業利益は前年同期に比べて約3億5,000万円、約28%減少いたしました。

有利子負債

(短期借入金+長期借入金)

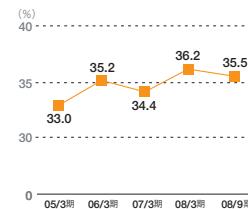
事業用不動産の取得などにより有利子負債は12.5億円増加いたしました。その結果、現預金残高を差し引いたネット有利子負債は28.8億円となりました。



自己資本比率

(純資産-少数株主持分)÷総資本

バランスシートの最適化を進める一方、剰余金の配当や為替換算調整勘定のマイナス分増加などにより純資産が若干減少し、自己資本比率は35.5%となりました。



株式情報

発行可能株式総数	20,000,000株
発行済株式総数	12,775,000株
株主数	12,610名

■大株主(上位10名)

株主名	持株数	出資比率
双日株式会社	3,832千株	30.0%
株式会社日本航空	2,727千株	21.4%
東京海上日動火災保険株式会社	409千株	3.2%
ニッセイ同和損害保険株式会社	392千株	3.1%
三井住友海上火災保険株式会社	252千株	2.0%
あいおい損害保険株式会社	189千株	1.5%
株式会社損害保険ジャパン	189千株	1.5%
空港施設株式会社	168千株	1.3%
JALUX 社員持株会	153千株	1.2%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	153千株	1.2%

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
株主確定基準日	3月31日(定時株主総会・期末配当金)
単元株式数	100株
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先・郵送先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都江東区東砂7丁目10番11号 ☎0120-232-711
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
公告掲載方法	当社ホームページにおける電子公告

株券電子化実施に伴うお知らせ

株券電子化実施後の株式に関するお届出先およびご照会先について
 2009年1月5日から、上場会社の株券電子化が実施されます。株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていない株主様には、当社株主名簿管理人三菱UFJ信託銀行株式会社に口座(特別口座といえます。)を開設いたします。株主様の口座への振替請求、単元未満株式買取・買増請求、お届出住所の変更、配当金の振込指定など、詳しくは、当社株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社 もしくは、下記までお問い合わせください。

●株券電子化に関するお問い合わせ先
 「株券電子化」なんでも相談窓口(株券電子化コールセンター)
 ☎0120-77-0915(平日・土 9:00~17:00)
 URL: http://www.kessaicenter.com/

会社概要

商号	株式会社 JALUX (ジャルックス) 【英文名JALUX Inc.】
証券コード	2729(東証1部)
設立	1962年(昭和37年)3月28日
資本金	25億5,855万円
従業員数	1,762名(連結子会社1,102名を含む)
国内空港店	羽田、成田、札幌、関西、福岡など25空港99店舗
国内関連企業	(株)JALUXエアポート(空港店舗運営業務)※ (株)JAL-DFS(免税品販売)※ (株)JALUXライフデザイン(介護事業)
海外関連企業	JALUX AMERICAS, Inc.(ロサンゼルス)※ JALUX EUROPE Ltd.(ロンドン)※ JALUX ASIA Ltd.(バンコク)※ JALUX ASIA SERVICE Ltd.(バンコク)※ JALUX HONG KONG Co., Ltd.(香港)※ JALUX SHANGHAI Co., Ltd.(上海)※ JALUX HAWAII, Inc.(ホノルル)

※連結子会社

役員

代表取締役会長	友 森 宏
代表取締役社長	岡 崎 俊 城
取締役 専務執行役員	塩野谷 住 雄
取締役 常務執行役員	大 貫 泰 正
取締役 常務執行役員	浅 山 得 壽
取締役 常務執行役員	田 島 伸 一
取締役(非常勤)	正 田 克 彦
取締役(非常勤)	西 田 温 朗
監査役	坂 本 敏 男
監査役(非常勤)	大 村 善 博
監査役(非常勤)	岩 井 幸 司
監査役(非常勤)	石 澤 照 久
常務執行役員	山 口 俊 朗
執行役員	松 下 良 夫
執行役員	安 孫 子 正 行
執行役員	山 本 雅 之
執行役員	宮 永 正 義
執行役員	武 田 裕
執行役員	平 井 淳
執行役員	寺 本 久 男
執行役員	石 川 龍 三



株主優待について

毎年3月末および9月末現在、100株以上所有の株主名簿記載の株主の皆さまに、次の通りJALUX株主優待商品券を進呈いたします。

株数	商品券枚数		年間優待額
	3月末	9月末	
100株以上 (500株未満)	2枚	2枚	4,000円
500株以上 (2,000株未満)	4枚	4枚	8,000円
2,000株以上 (4,000株未満)	7枚	7枚	14,000円
4,000株以上 (6,000株未満)	10枚	10枚	20,000円
6,000株以上 (10,000株未満)	12枚	12枚	24,000円
10,000株以上	14枚	14枚	28,000円

カタログ通販で使えます!

JAL World Shopping Club
 [ジャル・ワールド・ショッピングクラブ]



人気商品!



空港内の店舗で使えます!

BLUE SKY JAL-DFS
 [ブルースカイ] [ジャル・ディーエフエス]



※株主優待制度(店舗所在地等を含む)は、各種要因により変更となる場合がございますので、あらかじめご留意くださいますようお願い申し上げます。



【社会貢献型株主優待制度のご案内】

当社では、現在の株主優待商品券を活用した社会貢献型株主優待制度を導入いたしました。同制度は、当社からの拠出金ならびに当社社員からの寄付に加え、株主の皆さまも株主優待商品券をご活用いただくことにより、当社を通じて社会貢献活動にご参加いただけるものです。JALUXでは毎年3月末および9月末現在の株主の皆さまに対して株主優待商品券を進呈いたしておりますが、同制度の趣旨にご賛同いただいた株主様から株主優待商品券の一部をご返送いただき、当社がその株主優待商品券相当額を一括してJALUX名義で環境保護団体や社会

福祉団体など*へ寄付させていただきます。
 同制度は株主様の自由なご意志により運営する制度でございますので、ご理解のほど、よろしくお願いたします。
 なお、同制度導入による株主優待商品券の発行枚数などの変更はございません。

※寄付先および内容につきましては、この度新設しましたCSR推進委員会で検討のうえ、結果は、JALUX REPORT(本冊子)にてご報告させていただきます。

実施方法

社会貢献型株主優待制度の趣旨にご賛同いただける株主様は、ご提供いただける株主優待商品券を、商品券発送時に同封しております送付書とともに返送用封筒(社会貢献型株主優待制度専用)に封入の上、ご返送ください。

